

**「新しい東北」官民連携推進協議会
令和7年度 第三回意見交換会**

宮城県

1月29日

株式会社JTBコミュニケーションデザイン

● アジェンダ

3. 令和7年度における取組振り返り（JCD）

3-1. 実践の場実施報告(宮城県)

3-2. 東北3県・石川県合同セミナー実施報告

3-3. 本年度事業実施の振り返り（ご意見）

4. 第2期復興・創生期間における取組振り返りおよび

第3期復興・創生期間に向けて（JCD/副代表団体）

● 3 - 1. 実践の場実施報告(宮城県)

(1) 実施概要

■実施概要

〈イベント名〉 あのとこの私に伝えたいこと～震災の記憶を未来へ～

〈実施目的〉 高校生・大学生と共にフィールドワークを行い、震災の記憶を未来へとつなぐデジタルアーカイブを構築し教育・観光・防災の各分野で活用できる資源として発信する。

〈参加者〉 運営委員会:大学生4名、高校生2名

参加者:大学生12名※フィールドワークからの参加者

全体参加者:18名

〈実施内容〉 10月5日(日)

多賀城津波伝承「まち歩き」/フィールドワーク3コース

(南三陸:2箇所、石巻・女川:2箇所、仙台・山元:2箇所)

3-1. 実践の場実施報告(宮城県)

(2) 参加者

〈グループ① 南三陸コース〉

	氏名	フリガナ	所属
運営委員会	1		東北大学
	2		東北大学
参加者	3		東北大学
	4		福島大学
	5		横浜国立大学
	6		宮城学院女子大学

〈グループ② 石巻・女川コース〉

	氏名	フリガナ	所属
運営委員会	1		宮城学院女子大学
参加者	2		日本大学
	3		関西学院大学大学院
	4		福島大学
	5		東北大学
	6		東北大学

〈グループ③ 仙台・山元コース〉

	氏名	フリガナ	所属
運営委員会	1		東北大学
	2		多賀城高校
	3		多賀城高校
参加者	4		金沢大学
	5		日本女子大学
	6		東北大学

※募集チラシ

宮城県



あとの私に伝えたいこと

～震災の記憶を未来へ～

フィールドワーク 参加者募集 ・参加無料 ・事前申込制

本プログラムは高校生・大学生と共にフィールドワーク(現地でインタビューや震災遺構の見学、記録撮影)を行い、その証言をGoogle Map上に動画として掲載する新しい試みを実施します。震災の記憶を未来へとつなぐデジタルアーカイブを構築し、教育・観光・防災の各分野で活用できる資源として発信していきます。

10月5日(日) 震災の記憶をたどるフィールドワーク3コース

震災の記憶をたどる

南三陸コース

8:20 JR仙台駅 集合
バス
9:00 イオン多賀城店

震災の記憶をたどる

石巻・女川コース

8:20 JR仙台駅 集合
バス
9:00 イオン多賀城店

震災の記憶をたどる

仙台・山元コース

8:20 JR仙台駅 集合
バス
9:00 イオン多賀城店

共通コース 多賀城津波伝承[まち歩き] イオン多賀城店～末の松山・JR多賀城駅コース

多賀城高校の生徒が作成した「多賀城津波伝承[まち歩き]」コースをもとに作成したコースを体験。東日本大震災の津波だけではなく、約1000年前に発生した貞観津波のときにも罹を逃れたという「末の松山」もあり、生徒が語り部としてJR多賀城駅前の震災モニュメントまで案内します。また、この「まち歩き」コースは国上交通省と被災4県および仙台市で組織する「震災伝承ネットワーク協議会」からも、「3.11伝承ロード 震災伝承施設」として登録されています。

- ①イオン多賀城店(見学・取材)
- ②このコース最初の電柱
- ③国道45号線 八幡歩道橋
- ④末の松山 駐車場
- ⑤末の松山
- ⑥海から約2kmの電柱
- ⑦多賀城市震災モニュメント

11:45 JR多賀城駅前-多賀城文化センター
バス
12:45 各チームに分かれて取材

取材

- (南三陸町)SEASON 阿部様
資源を有効活用した街づくりを実施
- (南三陸町)南三陸研修センター 佐藤様
大学生や若手社会人を対象とした研修事業を実施

11:45 JR多賀城駅前-多賀城文化センター
バス
12:45 各チームに分かれて取材

取材

- (女川町)特定非営利活動法人 アスノキホク 丹野様
女川町で移住定住促進事業を推進
- (石巻市)公益社団法人 3.11メモリアルネットワーク 阿部様
3.11メモリアルネットワークの語り部として活動

11:45 JR多賀城駅前-多賀城文化センター
バス
12:45 各チームに分かれて取材

取材

- (仙台市)東北大学 災害科学国際研究所 津波工学研究室 新家様
震災後の生活実態と地域社会について研究
- (山元町)山元町震災遺構 中浜小学校 語り部 遠藤様
震災遺構となった母校中浜小学校で語り部として活動

18:00 JR仙台駅 解散

参加費 **無料** (交通・宿泊費) 県外からの参加者は往復30,000円(税込)を上限に交通費および宿泊の費用を補助します。
※自宅最寄り駅⇄仙台駅間(公共交通機関)

参加対象 全国の大学生・大学院生

開催場所 宮城県内 宮城県内各地でフィールドワークを行います。

定員 18～20名 ※応募多数の場合は抽選を行います。

締切 2025年9月22日(月)

申込 右記二次コードまたはURLよりお申込ください。
<https://forms.office.com/e/HYqVQWUAH7?origin=jprlink>

■フィールドワーク説明会への参加が必須となります。(オンラインにて開催予定)

お問合せ JTBCコミュニケーションデザイン(新しい東北イベント事務局)

メール newtohoku-event@jtbcom.co.jp

TEL 022-222-1582(受付時間:9:30～17:30 土日祝日除く)

東北 宮城県 インスタグラム

震災伝承と地域の未来づくりを学生と共に実践するプロジェクト。地域の抱える手とつなぐがテーマとするフィールドワークワークショップの最新情報はこちらから



主催:復興庁/「新しい東北」官民連携推進協議会(宮城県・東北大学・七十七銀行・みやぎ連携復興センター) 企画:JTBCコミュニケーションデザイン/JTB仙台支店

<https://www.newtohoku.org>

● 3 - 1 . 実践の場実施報告(宮城県)

(4) 実施の様子



■多賀城津波伝承『まち歩き』



■多賀城文化センター



■〈南三陸町〉SEASON



■〈南三陸町〉南三陸研修センター



■〈女川町〉アスエノキボウ



■〈石巻市〉3.11メモリアルネットワーク



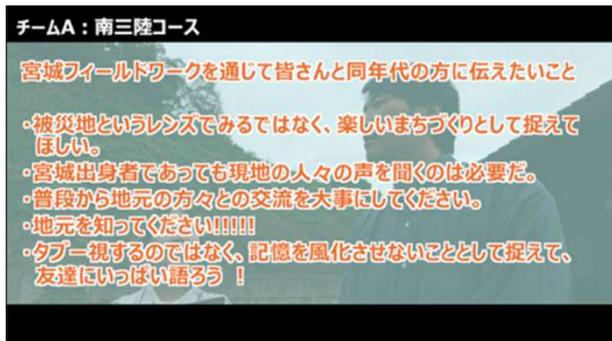
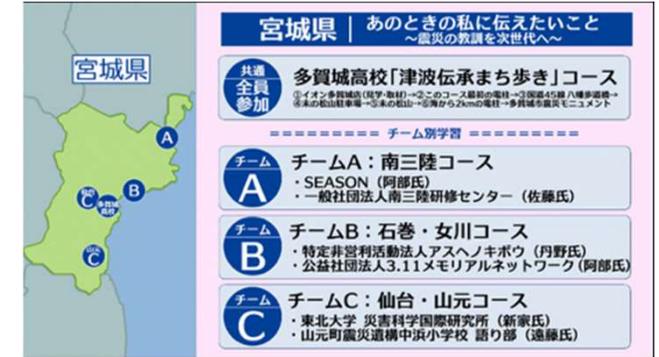
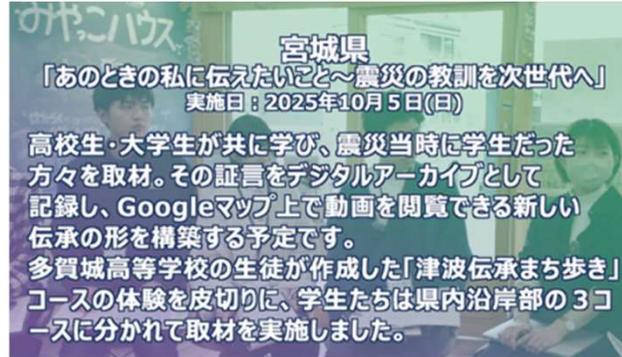
■〈仙台市〉東北大学 災害科学
国際研究所津波工学研究室



■〈山元町〉山元町震災遺構
中浜小学校 語り部

● 3 - 1 . 実践の場実施報告(宮城県)

(4) 実施の様子



● 3 - 1 . 実践の場実施報告(宮城県)

(5) 取りまとめシート記載内容の整理

◆全体のまとめ【伝えたいこと】

- 被災地の姿を「恐ろしい過去」ではなく、「今も生き続け、挑戦している場」として捉えてほしい。
- 震災を体験していない人であっても、「伝える人」になることができる。そしてそれが未来への“架け橋”となる。
- 風化の危機にある震災の記憶を、若者の力で新しい形で継承し、教育・観光・防災に活かしていくべきである。
- 復興の歩みや人々の挑戦には学びと勇気があり、それを自分なりに受け止め、行動へつなげていくことが求められている。

◆実践の場の成果

- 参加者が現地の空気、声、温度を直接感じることで、教室では得られない実感を持つことができた。
- 「語り部」という枠を超えた多様な伝え方を学び、自分なりの発信手段を模索するきっかけとなった。
- 同世代との対話や意見交換を通じて、「震災をどう伝えるか」「どう関わるか」について、主体的に考える視点を得た。
- 地域の課題とその解決に挑む人々の姿勢から、多様な価値観やライフスタイルを知ることができた。
- 結果として、「被災地を訪れる意義」を実感し、今後の学びや進路にも影響を与える可能性が高い。

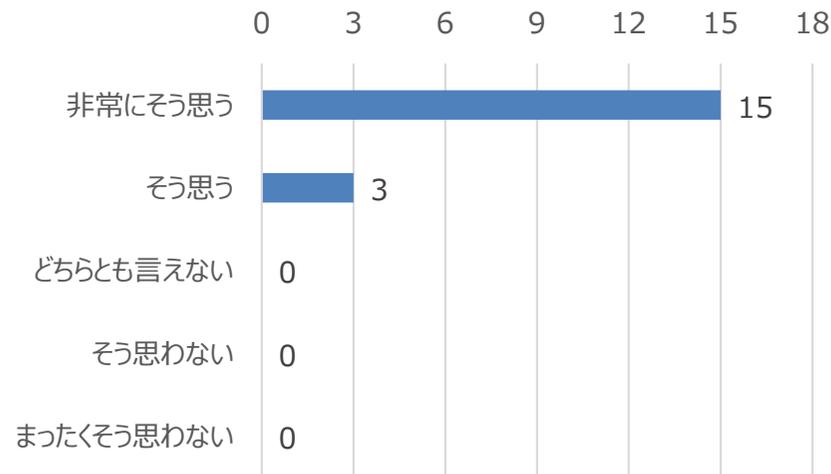
◆所感

- 震災から14年が経ち、被災地を知らない世代が主流となる中で、「語り続ける人材」が多様化していく必要がある。「記録する」から「伝え合う」へ、「一方的な学習」から「共に考える学び」へと、実践の場は大きな転換点を迎えている。
- 現地での体験を通じて、一人ひとりの関心と行動が変化し、「次の誰かに伝える」という責任が芽生えていた。
- 震災の教訓を未来に活かすために、行政や教育機関、民間が連携してこのような「つながりの場」を継続することが求められる。
- 今回の実践の場は、参加者一人ひとりの人生観や価値観にも大きく作用する体験となり、復興支援や防災の未来に対する強い原動力となったのではないかと考える。

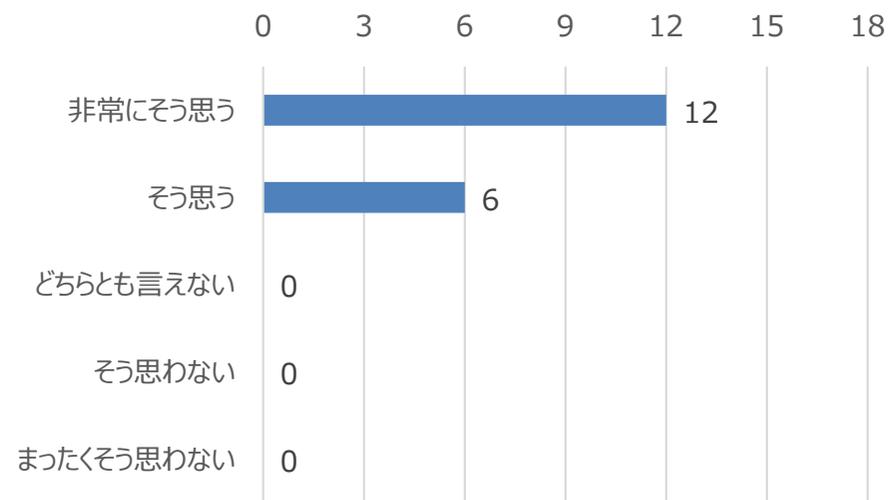
● 3-1. 実践の場実施報告(宮城県)

(6) 参加者アンケート

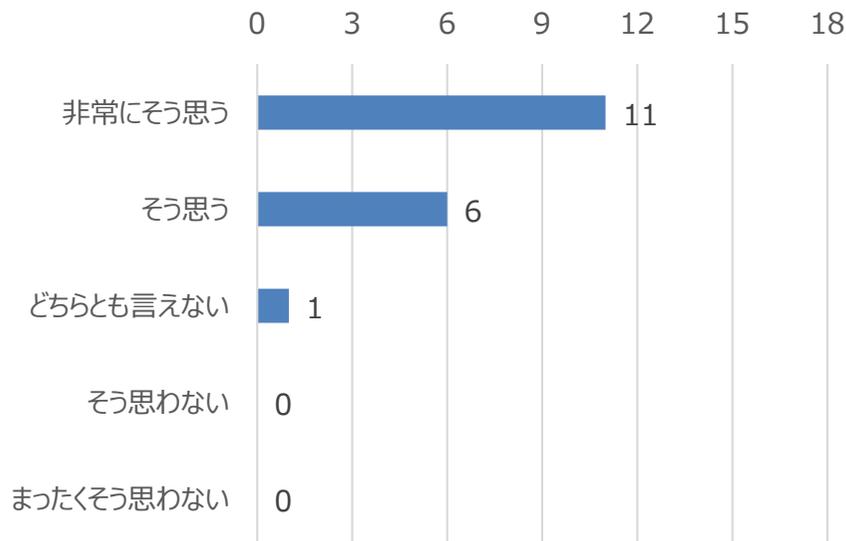
Q. 全体として「実践の場」に参加して良かったと思いますか？(n=18)



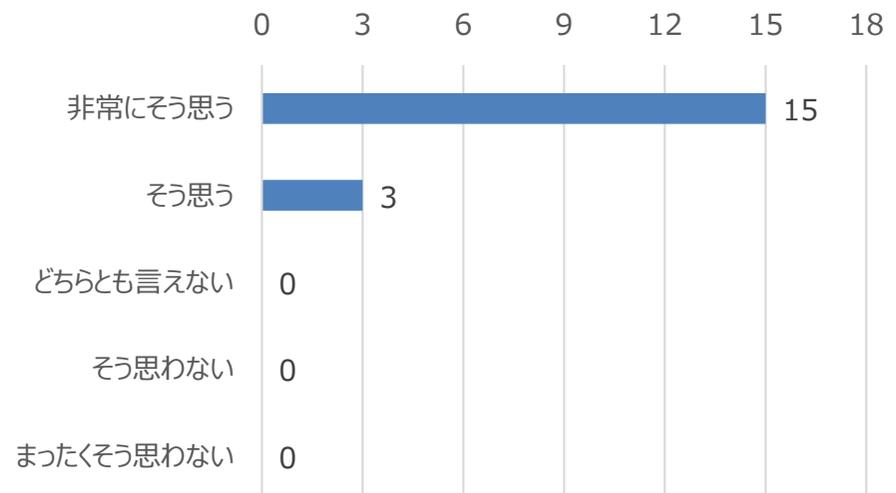
Q. 震災や復興に関する理解が深まりましたか？(n=18)



Q. この経験を他の人にすすめてみたいと思いますか？(n=18)



Q. 今後も復興・防災・地域づくりに関心を持ち続けたいと思いますか？(n=18)



● 3 - 1 . 実践の場実施報告(宮城県)

(6) 参加者アンケート (1/2)

Q. 本事業の「つながりのその先へ」「震災の記憶をつなぐ」意味から、今回の取材を通じて感じた、皆さんと同世代の若者に伝えたいメッセージをご記入ください。

- 震災の記憶をつなぐことを介して人と繋がることことができる。伝承を目的としてではなく手段として使っていく視点もある。
- 私と同世代の人（特には非被災地の人）は、被災前の東北を知らないため、東北を「被災地」として一括りにしてしまいがちな気がしますが、実際に行って、お話を伺うと、復旧を終えて復興・新事業開拓のフェーズに入っていたり、地域ごとにそれぞれ特色のある活動をしていたり、とてもカラーのある活動やイベントを実施しているということがわかると思うので、まずは自分の目で、自分の耳で、昔のことはもちろん、【今】のことは見たり聞いたりしてほしいと思いました。
- 災害伝承は、直接的に震災を経験していない人には遠いものかもしれないが、私たちの世代がもっと関心をもって、学ばなければ、震災の記憶は私たちの世代で途絶えてしまう。災害は、いつ誰に起こるかわからない、不確実性の高いものであるから、目の前にある日常を優先して私たちはそのリスクから目をそらしがちである。しかし、今私たちが、この記憶をつながなければ、何百年後、何千年後にまた大災害が起こったときに、人々の命が失われることを繰り返すことになる。だから、私たちは、誰もが震災の事実と向き合い、将来の世代の命を守る責任がある。
- とにかくいろんな方からいろんな話を聞くこと。直接聞く言葉には重みがあるし、説得力もあります。
- 震災を記録として残していくことと、記憶としてつないでいくことは別なのかもしれないと思った。記録は事実ベースで確実性があった方がいいし、必ず誰かが伝承していかないといけないものだと思う。だが、記憶は伝え手の感情や感想が入ってなんぼだし、受け手の受け取り方次第でもその意味は変わってくるはず。そういう意味で、震災を直接経験していなかったり、直接的な被害を受けなかった人たちが、この震災の記憶をつないでいくという意味があるなと思った。正しいことを伝えていかないといけない人もいるが、自分の思いを表現する人のその色の多種多様さを保ち続けることが、震災の伝承に繋がるのではないかと思う。だから、最初から伝承しなきゃと硬くなるのではなく、語ってくれる人と話し、そこで思ったことを自分の言葉にする過程を恐れずに向き合ってみて、その結果、その地域に関わっちゃってたわ！くらいの気楽さをもった被災地域との関わり方もいいのでは。
- 3月11日の出来事は「震災」と一言でまとめられるが、被害や想いは人それぞれ異なることを知ってもらいたい。
- 記憶を感情で残すことが大事である。

● 3 - 1 . 実践の場実施報告(宮城県)

(6) 参加者アンケート (2/2)

Q. 本事業の「つながりのその先へ」「震災の記憶をつなぐ」意味から、今回の取材を通じて感じた、皆さんと同世代の若者に伝えたいメッセージをご記入ください。

- 多賀城高校の学生や今被災地で働いている方々、お店などにぜひ足を運んで欲しい。
- 震災に関わることと言ったら現地にボランティアしに行く等を思い浮かべる人が多いと思いますが、実際はちょっとした事でも震災に繋がっていくことがたくさんあるから、まずは震災について自分なりに知識を得ることが大切だと思いました。
- 「災害は忘れた頃にやってくる」ので、忘れさせない為に、若者こそがこれからの防災や伝承を担ってほしい。
- まずは自分が住んでいたり縁があったりする土地を知るのが大事です。その土地のことが好きであってもそうでなくても、まずは知るところから。知る手段は何でも良いです。住んでいれば近所の人との交流があったり、思い切ってインタビューしてみたり、よく知っているからこそ思わぬ活路が見い出せます。なにより伝承というのは難しいもので、発信する方が受け取る方、どちらかが能動的に動かないと成立しません。情報の連続性が途切れてしまいます。発信する方の高齢化が進むいま、一歩踏み出す必要があります。執拗なほど家を訪問して観光の目的のひとつになってもらったり地場産業を全国に誇示してみたり、先輩はたくさんいます。逆に、実家が東京や大阪など、いわゆる"地元"を手に入れられない人も、高齢化の裏返しとして大勢いるはずで。私もそうです。地元を知っても、これといった深刻な問題がないとか、すでになんとかなっているとか、そういった時には関連人口として、すなわち住んでいるわけでも縁があるわけでもないが、そこへ訪れる人として過ごしてみてください。現地で魅力的な活動をしていても、それが大消費地へ伝わらなければ意味がありません。じっさい私も今回見た取り組みは聞いたことがありませんでした。伝承、或いは伝達の受け取り手へ情報を届ける伝書鳩役は大勢必要です。私はこれを目指します。

● 3 - 1 . 実践の場実施報告(宮城県)

(7) 取材対象者感想

【南三陸コース】

- ・取組が何であれ、学生が足を運んでくれてよかった。学生からも、現状を発信してほしい。
- ・復興は復興で、地域課題は地域課題である。復興した南三陸を見に来て、地域課題である人口減少・少子高齢化を解消できるような人が集まる取り組みを続けていきたい。

【石巻コース】

- ・震災当時のイメージのままの人がいたら、皆さんと同じで明るく前向きに生活している人がいるということも同じく伝えてほしい。
- ・自分一人の仕事が自分にとっても大事だが、自分の仕事地域社会の発展にもつながることを学生の方に理解してほしい。

【仙台・山元コース】

- ・学生だけでなく、もっと大勢の方に取り組みを知ってほしいので、個人レベルでの活動も行っていく。
- ・参加した学生が、この後どういうアクションを起こしていくのか楽しみ。

● 3 - 1 . 実践の場実施報告(宮城県)

(8) メディア掲載

■ 日テレNEWS WEB版(10月6日)

これは、復興庁が企画したもので、高校生や大学生が宮城県内3つのコースに分かれ、震災遺構の見学や記録・撮影を行いました。



南三陸町のフィールドワークには、宮城県の内外から大学生6人が参加。

震災後に故郷に戻り、海藻を扱ったカフェを始めた阿部将己さんから、震災当時の状況や復興への思いを聞き取りました。

■ 1/15(木) ミヤギテレビ「OH!バンドス」



[震災の記憶を“デジタルアーカイブ”として残す、大学生が記録「復興とは新しい価値を
上乗せしていくこと」\(宮城・南三陸町\)\(2025年10月6日掲載\) | 日テレNEWS NNN](#)

● 3-1. 実践の場実施報告(宮城県)

(9) Googleスポット

1	一本目の電柱	宮城県	有	〒985-0845 宮城県多賀城市町前2丁目	無	なし	https://maps.app.goo.gl/z4z43L6HNMQcq7Pg6
2	国道45線 八幡歩道橋	宮城県	有	〒985-0874 宮城県多賀城市八幡2丁目	無	なし	https://maps.app.goo.gl/fAQ7SadTV1PfoW2r9
3	末の松山	宮城県	有	〒985-0874 宮城県多賀城市八幡2丁目8-28	無	なし	末の松山 - Google マップ
4	末の松山駐車場	宮城県	有	〒985-0874 宮城県多賀城市八幡2丁目21	無	なし	https://maps.app.goo.gl/PFP7ox4ZRTsotJTGA
5	海から約2kmの電柱	宮城県	有	〒985-0874 宮城県多賀城市八幡3丁目10	無	なし	https://maps.app.goo.gl/feUS8fV9GMfGmKkv9
6	多賀城市震災モニュメント	宮城県	有	〒985-0873 宮城県多賀城市中央2丁目7	無	なし	https://maps.app.goo.gl/DNG8TgTXHUqXzCvJ9
7	SEASON cafe&shop	宮城県	有	〒988-0451 宮城県本吉郡南三陸町歌津管の浜94-1	有	SEASON cafe&shop	https://maps.app.goo.gl/N4RCUXgRSJtHq5dz5
8	まなびの里 いりやど	宮城県	有	〒986-0782 宮城県本吉郡南三陸町入谷 鏡石5-3	有	まなびの里 いりやど	https://maps.app.goo.gl/mMyP27wq3RPgNxCo9
9	アスヘノキボウ	宮城県	有	〒986-2265 宮城県牡鹿郡女川町女川2丁目4-番地	有	女川フューチャーセンター Camass	https://maps.app.goo.gl/JnKBVjiPwszL2F459
10	3.11メモリアルネットワーク	宮城県	有	〒986-0834 宮城県石巻市門脇町5丁目1-1	無	なし	https://maps.app.goo.gl/uCF5Z564TVu7z9mV7
11	せんだい3.11メモリアル交流館	宮城県	有	〒984-0032 宮城県仙台市若林区荒井字沓形85-4	有	せんだい3.11メモリアル交 流館	https://maps.app.goo.gl/bBMv49qh54RRi1XX8
12	山元町震災遺構 中浜小学校	宮城県	有	〒989-2111 宮城県亶理郡山元町坂元久根22	無	なし	https://maps.app.goo.gl/QgzYUTNpxaxXQyds8

● 3-1. 実践の場実施報告(宮城県)

(9) Googleスポット

末の松山 - Google マップ

https://www.google.co.jp/maps/place/末の松山/@38.2877561,141.0034366,3a.75y,90t/data=!3m1!1e1!1sCIABihCE9oUqBjmnQ-blupHWY-osl!2e10!3e10!6shttps://2f%2Fih3.googleusercontent.com%2Fgeoug-cs%2FAMBA38...

末の松山

概要 クチコミ 基本情報

並べ替え

すべて 芭蕉 8 寺 8 波 5

駐車場 5 歌枕 4 奥の細道 4 震災 4

住宅地 4 古今和歌集 3 墓地 3

玄米 麦茶玄米

★★★★★ 2時間前 新規

末の松山 (多賀城市)

> 古くから歌に詠まれ、「決して波に浸食されない」とされた伝説の地、末の松山。しかし、2011年3月11日の津波は、この地を越え、私たちに震災の教訓を深く刻みました。... もっと見る

津波伝承「まち歩き」

大学生も熱心に学ぶ

0:00 0:27

マクドナルド

Google Maps

● 3 - 2. 東北3県・石川県合同セミナー実施報告

(1) 開催概要

「新しい東北」官民連携推進協議会 東北3県・石川県合同セミナー 震災の教訓を共有し、復興の知恵を次世代へ

- 日 時: 2025年12月20日(土)
13:30-16:30(開場 13:00)
- 会 場: 石川県地場産業振興センター 本館
セミナー会場: 第1研修室(本館2階)
- 概 要: 東日本大震災から15年を迎えるにあたり、東北3県で培った官民連携の知見と、復興の途上にある能登地域の現状や課題を共有し、対話を通じて今後の地域間連携のあり方を共に考える機会として開催。
- 主 催: 「新しい東北」官民連携推進協議会、復興庁
(岩手県、岩手大学、岩手銀行、いわて連携復興センター)
(宮城県、東北大学、七十七銀行、みやぎ連携復興センター)
(福島県、福島大学、東邦銀行、ふくしま連携復興センター)
- 共 催: 金沢大学 能登里山里海未来創造センター
- 連携先: 能登官民連携復興センター
- 協 力: 副代表団体、実行委員会に参加した高校生・大学生

- 参加者数: 一般参加者: 32名(事前登録39名)・登壇者・関係者: 38名
・オンライン参加者: 39名(事前登録35名)計109名
- 取材メディア一覧: テレビ金沢 石川テレビ 北陸放送 北陸朝日放送 北國新聞 金沢日和

● 3-2. 東北3県・石川県合同セミナー実施報告

(2) 告知チラシ

復興庁
復興・創生 その先へ

「新しい東北」官民連携推進協議会
東北3県・石川県合同セミナー

震災の教訓を共有し、復興の知恵を次世代へ

東日本大震災から15年を迎えるにあたり、東北3県で培った官民連携の知見と、復興の途上にある能登地域の現状や課題を共有し、対話を通じて今後の地域連携のあり方を共に考える機会として開催します。

一般観覧者 募集 **観覧無料**

日時 2025年12月20日(土)
13:30~16:30 [開場/13:00]

会場 石川県地場産業振興センター 本館2階 第1研修室
〒920-8203 石川県金沢市越月2丁目1番地

プログラム

第1部
①官民連携推進協議会の取組について
石川県+副代表大学(岩手・宮城・福島)による講演
○金沢大学:谷内江 昭宏 氏
○岩手大学:五味 壮平 氏
○東北大学:姥浦 道生 氏
○福島大学:藤室 玲治 氏

第2部
②能登×東北 対話の時間
金沢大学・東北3県・自治体・企業等によるトークセッション
【テーマ】新しい東北の取り組みから考える、復興における官民連携の姿

若者たちのメッセージ

①実践の場(フィールドワーク)映像上映
②交流セッション(学生同士)の対話
・私たちが地域のためにできること
・復興における若者の役割
・地域に住み続ける/離れる理由

お申込みはコチラ▶
右記二次元コードよりお申し込みいただけます。
申込み締め切り:12月18日(木)まで

お問合せ
「新しい東北」官民連携推進協議会
イベント事務局
E-mail: newtohoku-event@jtbcom.co.jp
TEL: 022-222-1582
(受付時間:9:30~17:30 土日祝日除く)

主催:「新しい東北」官民連携推進協議会/復興庁

「新しい東北」官民連携推進協議会 東北3県・石川県合同セミナー
震災の教訓を共有し、復興の知恵を次世代へ

金沢大学
理事・副学長
能登山崖海岸未来創造センター長
谷内江 昭宏 氏
やちえ あきのひろ

小児科(アレルギー・免疫)専門の医学博士。能登半島地震では医療支援や被災地支援拠点の整備を進め、学生と共に地域復興に取り組み、災害に強い持続可能な社会づくりを目指しています。

岩手大学人文社会科学部
人間文化課程 教授
五味 壮平 氏
ごみ そうへい

東日本大震災後の地域再生にあたり、陸前高田市を舞台に、学生たちとともに活動を行うとともに、岩手大学と立教大学が共同で設置した陸前高田グローバルキャンパスの企画・運営等に携わってきました。地域と大学・学生をつなぐべくみづぐりに実践的に取り組んでいます。

東北大学
災害科学国際研究所 教授
姥浦 道生 氏
うしむら みちお

東日本大震災を中心とした、大規模災害からの復興に伴う空間利用(土地利用)の変遷の実際と課題について、特にその復興を支える空間的計画・規制・事業との関連性を通じて明らかにすることに取り組んでいます。

福島大学 センター・研究所等
地域未来デザインセンター
特任准教授
藤室 玲治 氏
ふじむら れいじ

阪神・淡路大震災を機に災害ボランティアを始め、東日本大震災など各地で「被災者とのコミュニケーションが災害支援の原点」と考え、大学生と被災者が足湯やサロンで交流する活動を展開。福島の復興でも、大学生とともに災害伝承やコミュニティ再生に取り組んでいます。

プログラム

13:00	開場・受付開始
13:30	オープニングトーク(復興庁ほか)
13:40	【第1部①】官民連携推進協議会の取組について 石川県+副代表大学(岩手・宮城・福島)による講演 【講演テーマ】 !金沢大学 谷内江 昭宏 氏「能登地域の復興の現状と課題」 !岩手大学 五味 壮平 氏「災後の地域に大学はいかに関わり得るか - 陸前高田での実践を通して考える -」 !東北大学 姥浦 道生 氏「官民連携による復興まちづくり事業」 !福島大学 藤室 玲治 氏「学びの地、挑戦の地、福島に集う若者と取り組む復興 - ふるさと愛プロジェクト」
14:25	【第1部②】能登×東北 対話の時間 金沢大学・東北3県・自治体・企業等によるトークセッション 【テーマ】「新しい東北の取り組みから考える、復興における官民連携の姿」
15:00	休憩
15:10	【第2部】若者たちのメッセージ (1)実践の場(フィールドワーク)映像上映 (2)交流セッション(学生同士の対話) 【例】・私たちが地域のためにできること ・復興における若者の役割 ・地域に住み続ける/離れる理由
16:30	閉会

本セミナーはオンライン配信でご覧いただけます。
事前登録の上、ご参加ください。
<https://zoom.us/j/92285213712>

ファシリテーター
株式会社makes 代表取締役
後藤 直哉 氏
ごとう なおや
地域における観光振興を目的とした各種プロジェクトや事業など、外国人観光客を含む観光マーケティング、コンサルタントとして活動。

主催:「新しい東北」官民連携推進協議会/復興庁
(岩手県、岩手大学、岩手銀行、いわて連携復興センター/宮城県、東北大学、セブン銀行、みやぎ連携復興センター/福島県、福島大学、東邦銀行、ふくしま連携復興センター)

■共催:金沢大学 能登山崖海岸未来創造センター ■連携先:能登官民連携復興センター
■協力:副代表団体、実行委員会に参加した高校生・大学生

「新しい東北」官民連携推進協議会 についてはこちら

● 3-2. 東北3県・石川県合同セミナー実施報告

(3) プログラム内容

TIME	プログラム内容
13:00	開場・受付開始
13:30	オープニングトーク:
13:40	第1部①:官民連携推進協議会の取組について 石川県+副代表大学(岩手・宮城・福島)による講演(各10分) 【講演テーマ】 ・金沢大学:(谷内江 昭宏 先生)「能登地域の復興の現状と課題」 ・岩手大学:(五味 壮平 先生)「災後の地域に大学はいかに関わり得るかー陸前高田での実践を通して考えるー」 ・東北大学:(姥浦 道生 先生)「官民連携による復興まちづくり事業」 ・福島大学:(藤室 玲治 先生)「学びの地、挑戦の地・福島に集う若者と取り組む復興ーふるさと愛プロジェクトー」
14:25	第1部②:能登×東北 対話の時間 金沢大学・東北3県・自治体・企業等によるトークセッション(30分) 【テーマ】 『新しい東北の取り組みから考える、復興における官民連携の姿』
15:00	休憩(10分)
15:10	第2部:若者たちのメッセージ (1)実践の場(フィールドワーク)映像上映(8分) 発表用8min V3 1 (2)交流セッション(学生同士の対話) (70分) ・現地に行く前のイメージと、行ってから見えた「リアル(ギャップ)」は何でしたか? ・震災を知らない世代や、同世代に向けて「これだけは伝えたい」メッセージは? ・「MY ACTION宣言」明日から何を始める? ・地域に住み続ける/離れる理由 〈クロージングトーク〉(2分)
16:30	終了

● 3 - 2. 東北3県・石川県合同セミナー実施報告

(4) 実施の様子



■オープニングトーク
(復興庁 復興知見班 参事官 佐藤 将年氏)



■講演① 金沢大学 理事・副学長 能登里山里海
未来創造センター長 谷内江 昭宏 氏



■講演② 岩手大学 人文社会科学部
人間文化課程 教授 五味 壮平 氏



■講演③ 東北大学 災害科学国際研究所 教授
姥浦 道生 氏



■講演 福島大学 センター・研究所等 地域未来
デザインセンター 特任准教授 藤室 玲治 氏



■能登×東北 対話の時間



■【第2部】若者たちのメッセージ
(1)実践の場(フィールドワーク)映像上映



■【第2部】若者たちのメッセージ(2)
交流セッション(学生同士の対話)



■【第2部】若者たちのメッセージ(2)
交流セッション(学生同士の対話)



■【第2部】若者たちのメッセージ(2)
交流セッション(学生同士の対話)



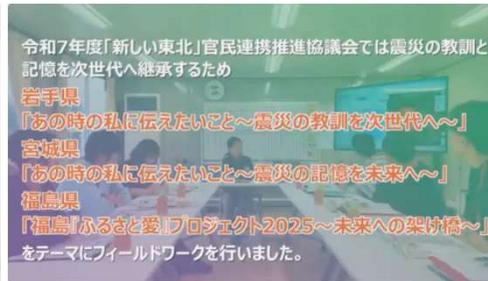
■【第2部】若者たちのメッセージ(2)
交流セッション(学生同士の対話)



■フォトセッション

● 3 - 2. 東北3県・石川県合同セミナー実施報告

(4) 実施の様子（動画配信ベース）



※映像:<https://www.youtube.com/watch?v=0zDqG7r-NtQ>

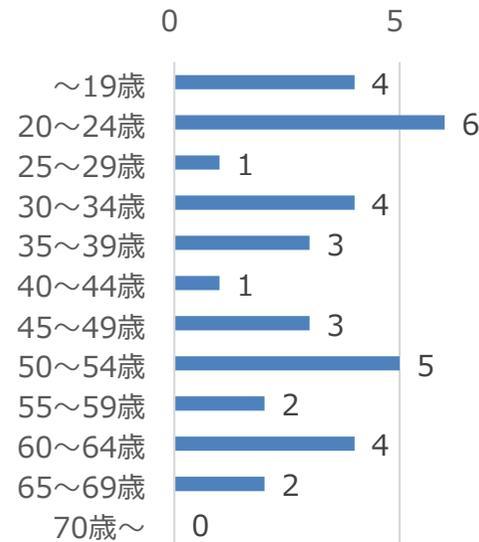
● 3 - 2. 東北3県・石川県合同セミナー実施報告

(5) 参加者アンケート

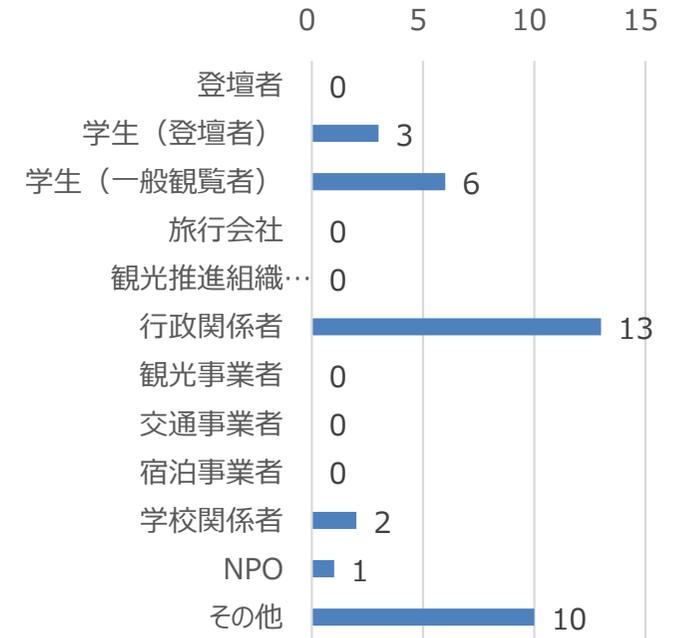
回答者属性：居住地(n=35)

居住地	人数
石川県	13名
岩手県	8名
宮城県	5名
福島県	3名
千葉県	1名
東京都	1名
新潟県	1名
富山県	1名
京都府	1名

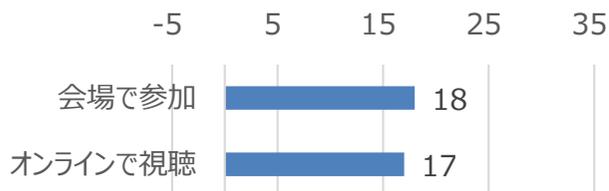
回答者属性：年齢(n=35)



回答者属性：職業(n=35)

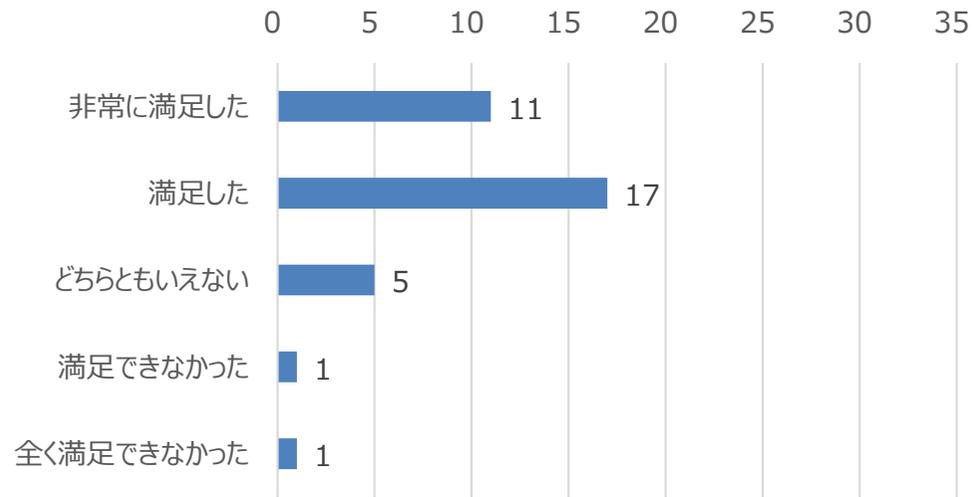


回答者属性：参加形態(n=35)

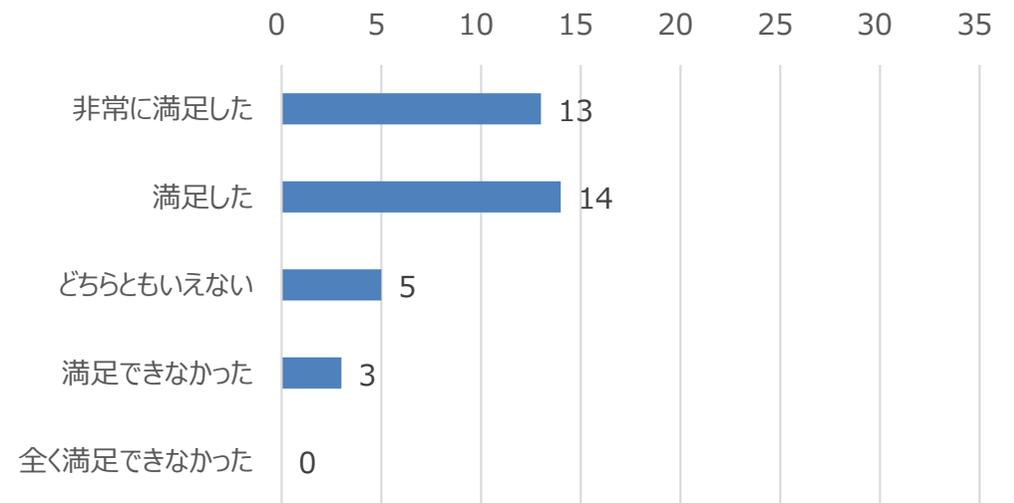


● 3-2. 東北3県・石川県合同セミナー実施報告

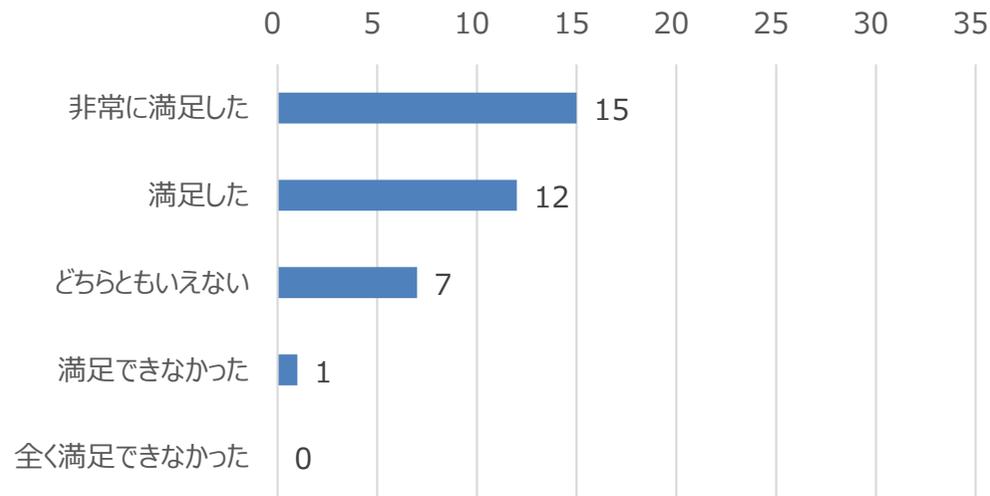
【満足度】 第1部「①官民連携推進協議会の取組について」(n=35)



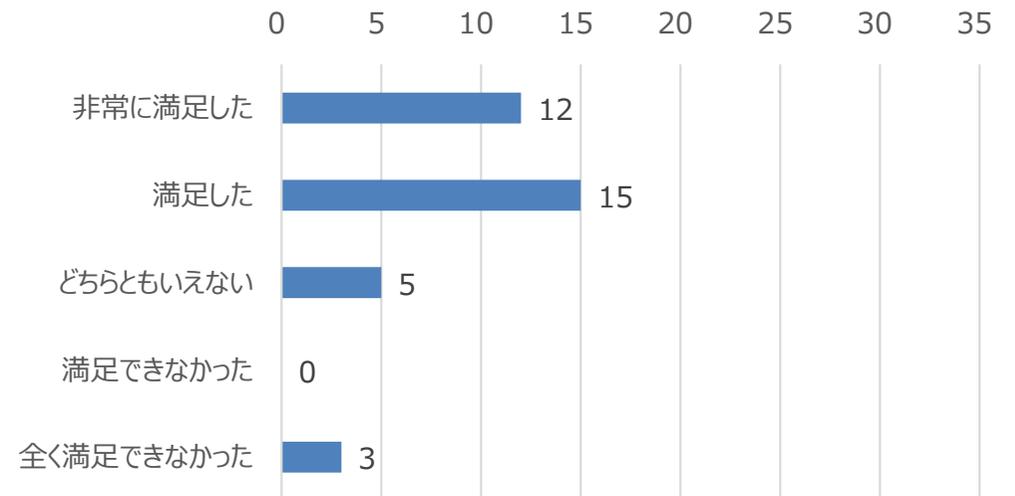
【満足度】 第1部「②能登×東北 対話の時間」(n=35)



【満足度】 第2部「若者たちのメッセージ」(n=35)



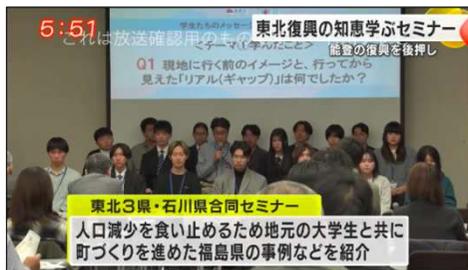
【満足度】 本セミナー全体の評価(n=35)



● 3 - 2. 東北3県・石川県合同セミナー実施報告

(6) メディア掲載

■石川テレビ 12月21日放映



■石川テレビ(WEBニュース) 12月21日掲載



● 3 - 2. 東北3県・石川県合同セミナー実施報告

(6) メディア掲載

■北陸朝日放送 12月21日放映



■北陸放送 12月21日放映



● 3 - 2. 東北3県・石川県合同セミナー実施報告

(6) メディア掲載

■北國新聞 12月21日掲載



■金沢日和WEBサイトへ掲載



● 3-3. 本年度事業実施の振り返り（ご意見）

■ 宮城県の実践の場に関する振り返り

- 宮城県では、県立多賀城高等学校が取り組んできた学習や表現のプロセスを、参加した大学生にも体験してもらえた点が大きな成果であった。
- 高校生と大学生という異なる世代が同じテーマに向き合うことで、視点や考え方の違いに気づく機会となり、双方にとって学びの多い場となった。

【課題・反省点】

- 事前段階において、高校生と大学生が共同でテーマ設定や取材方針を話し合う準備の場を設けることができれば、当日の学びをさらに深めることができた。
- 高校生・大学生それぞれの役割や期待値を、事前に十分すり合わせる余地があった。
- 当日の体験内容を振り返り、学びを構造的に整理・共有する時間をより確保する必要があった。
- 複数主体が関わる取組であるため、全体の進行や情報共有について、より分かりやすい運営設計が求められた。

■ 3県合同セミナーの振り返り

- 岩手・宮城・福島に加え、金沢から大学教員を招き、第三者の立場から現状の取組についてコメントをいただけたことは、非常に貴重な機会であった。
- 専門的な視点からの助言により、今後の展開や課題を客観的に整理することができた。
- 学生自身が登壇し、生の声で経験や気づきを語ったことで、事業の成果がより具体的かつ説得力をもって共有された。

【課題・反省点】

- 各県の取組内容が多岐にわたるため、全体構成や時間配分について、より整理した進行とする余地があった。
- 来場者・視聴者の属性に応じた説明レベルや資料構成について、実践の場をより詳細に説明する資料を加えるなど、さらなる工夫の余地があった。
- 学生発表の時間を確保できた一方で、参加者同士の意見交換や質疑の時間を十分に設けられなかった点は反省点である。

● 4. 第2期復興・創生期間における取組振り返りおよび第3期復興・創生期間に向けて（JCD/副代表団体）

交流人口拡大を目的とした観光振興を取組テーマとして、宮城県の学生・若者が主体となり、沿岸部を中心に地域資源や観光コンテンツの魅力検証と発信に取り組んできた。過年度には、インバウンドを想定したエクスカージョンプログラムの造成やモニターツアーを通じて、被災地の現状や復興の歩みを伝える実践の場を形成してきた。今年度は、能登半島地震等からの復興の参考とするため、南三陸・石巻・仙台の3拠点で実地調査・取材を行い、その証言をデジタルアーカイブとして記録し、合同セミナーにて成果を共有した。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
テーマ	東日本大震災から10年目にあたって	地域の魅力の磨き上げ	持続可能な地域文化の継承と磨き上げ	インバウンド・個人客等も見据えた観光振興	インバウンド・個人客等を目的として交流人口拡大に向けた評価・検証	震災の記憶を未来へつなぐ官民連携の総括
実践の場	「みやぎ復興官民連携フォーラム」 東日本大震災を契機とした官民連携の取組事例を振り返り、復興活動や今後の災害対応に資する知見を整理・共有し、連携の意義を確認した。	「『学ぶ旅』と旅行者データ活用による観光振興 座談会」 「多様な事業者が関与する「観光」をテーマとした推進」を切り口に、地域の課題に挑戦している事業者の観光コンテンツの磨き上の共有。	「エクスカージョンプログラムモニターツアー」 行政関係者や旅行会社を対象に、宮城県沿岸部の被災・復興の状況理解と防災意識の向上を目的としたモニターツアーを実施し、地域資源の価値検証を行った。	「エクスカージョンプログラムの具体化・商品化に向けた試行」 プログラムの試行を行うとともに、「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラムへの参加を通じて、復興の歩みと地域の魅力を発信した。	「「STAND OUT 宮城」沿岸地域エクスカージョンプログラム魅力検証」 沿岸地域を中心としたエクスカージョンプログラム造成に先立ち、既存観光コンテンツの魅力検証・評価を実施した。	「あのときの私に伝えたいこと～震災の記憶を未来へ～」 南三陸・石巻・仙台の沿岸部3拠点を中心に実地調査・取材を行い、震災当時学生であった世代の証言をデジタルアーカイブとして記録した。
次年度への課題	官民連携の取組を個別事例の共有にとどめず、知見を整理・体系化し、若い世代の参画を含めた継続的な実践の場へと発展させること。	議論や意見交換にとどまらず、学生・若者の参画を含めた実地での検証や発信へと発展させ、観光振興の取組を具体的な行動として展開。	検証結果を一過性の評価にとどめず、学生・若者の主体的な参画を通じて、発信や商品化を見据えた実践的な取組へと展開していくこと。	試行段階にとどまらず、学生の学びと地域の取組を継続的な実践の場として定着させ、交流人口拡大につながる仕組みへと発展させる。	評価・検証結果を整理し、震災復興の歩みや教訓を踏まえた取組として再構成するとともに、次年度の総括的な実践へとつなげていくこと。	意見交換会にて議論